

7月15日（木）

花火の歴史を調べていて分かったこと。花火は江戸時代前からあったようですが、現在のようなま〜るい花火になったのは明治になってからのことだとか。カラフルな花火もまた、明治になってから、いろんな薬品が海外から輸入されてからでした。ということは、それまでの花火は「流星」と呼ばれていたことから、一筋の流れ星のようなもので、色も白か橙色の1色だったということです。江戸時代の人がタイムスリップして、現在の花火を見たら、どんな声を発するのでしょうかね。「かぎや〜」とか「たまや〜」なんて、のんびりと掛け声をかけられず、あんぐりと口を開けて、ただただ見上げているだけ、という状態かもしれませんね。だって、何発もの花火が連続して炸裂するのですから。